

# オブリガーダ ポルトガル♪

「オブリガーダ」とは、ポルトガル語で「ありがとう」の意味です。



大分・日本ポルトガル協会

〒870-8504 大分市荷揚町2-31 大分市文化国際課内  
TEL097-537-5663 FAX097-536-4044

## ～大友宗麟と南蛮貿易について～

宗麟公の活躍と、その時代のポルトガルとの交流史をレポートします



### 大友氏の歴史について

豊後では13世紀の始めから大友氏が守護として入国し、以後約400年間にわたり大友氏が豊後国を統治しました。特に大友宗麟(本名 おおとも よししげ、享禄3年1月3日(1530年1月31日)～天正15年5月6日(1587年6月11日)の時代には、豊前を含め北部九州6か国を支配するまでとなりました。

キリシタン大名としても知られる大友宗麟は、当時キリスト教や西洋文化を積極的に取り入れ、府内及び臼杵港には中国船やポルトガル船が入り、いわゆる「南蛮貿易」が盛んに行われ、府内は、大阪の堺と並ぶ国際都市として繁栄しました。

(大友宗麟像:大分駅前)

### 南蛮貿易

1543年(天文12)ポルトガル人商人の種子島漂着を契機として、次第にポルトガル商船が西南九州に入港するようになりました。来航の目的は、当時、明の海禁策で途絶えていた日明貿易を肩代わりし、加えて両国間の貿易を仲介することでした。ポルトガル船は57年(弘治3)中国からマカオ居住の許可を得ると貿易拠点とし、鹿児島、坊津、府内、平戸、長崎などに来航しました。南蛮人とはポルトガル人・スペイン人を指すことが多く、イギリス人・オランダ人は紅毛人と呼ばれていました。貿易では銀を輸出して中国産生糸を輸入することが多く、この流れは江戸時代初期の外交まで続くこととなります。

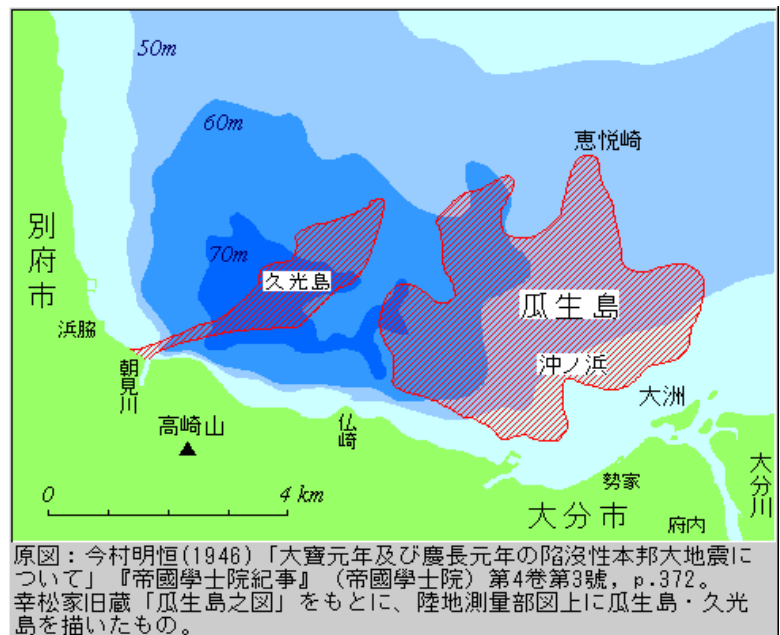


(ポルトガル人から贈られたとされる大砲)

ポルトガル船は布教を許可した大名領にのみ入港したので、貿易の利益を求め、キリスト教を保護し、自ら入信する大名(キリシタン大名)が出てきました。ポルトガル人が最初に豊後(大分)にやって来たのは1545年(天文14年)であったとされています。宗麟の思い出話によると、府内に近い港(沖の浜、瓜生島伝説のルーツになった港)に、中国人の小ジャンク船が入港し、船内に6、7人のポルトガル商人が同乗していたそうです。大分には頻りにポルトガル船が入港していたため、ポルトガル人が持ち込んだ商品を目当てに商人が数多く集まったといわれています。実際に大分市浜町には「南蛮貿易場址記念碑」がありますし、宗麟は欧州人に対し好意的で、1551年にはスペイン人宣教師のフランシスコ・ザビエルを防府から招き、それ以後、西洋音楽、西洋演劇発祥の地として栄え、ルイス・デ・アルメイダが孤児院・西洋病院として府内病院を開設しています。

### ～沖の浜港と瓜生島伝説とは～

これは、「日本版アトランティス伝説」というべきもので、現在の大分市の西大分港付近に沖ノ浜港と呼ばれる所があり、この沖の浜港の事を「瓜生島」と呼んでいたようです。大分県は島が多い所で、北は国東半島の姫島、南は佐伯市の大入島などがあります。県の中心部にあたる別府湾にも同様に島がいくつもありました。民話によると、この島には恵比寿様が祭られていて、「恵比寿様の顔が赤くなると災いが起きる」という噂がありました(ただの仏像であるという説も)。



その島の住民の一人で医者の子が、事もあろうにその恵比寿像に赤い顔料を塗ってしまいます。これを見た民達は当然のよう「災いが起きる！」と大騒ぎをしました。そして、その不安は的中し、慶長元年閏7月12日(1596年8月5日)の午後2時～4時に別府湾を中心に大地震が発生。この大地震の時に馬に乗った老人(「恵比寿様の化身」と言われています)が現れ、早く島から逃げようと言います。顔料を塗った若者も船に乗って逃げようしますが、彼は瓜生島と共に海の底へ沈んでしまいます。その被害はすさまじく、「日出町から佐賀関町の間も一部沈没した」とルイス・フロイス神父の報告に記されています。

### その後のポルトガルとの交易

宗麟の没後、慶長5年3月16日(1600年4月29日)九州豊後(現在の臼杵市)黒島にオランダ船リーフデ号が来航しました。

リーフデ号の航海士ウィリアム・アダムズは西洋の科学知識と人柄を徳川家康に見込まれて、側近として召し抱えられ幕府の外交顧問として活躍しました。アダムズの尽力によって平戸にオランダ商館とイギリス商館が設立され、日本と両国との交流が始まります。

しかし、その後江戸幕府は禁教政策に加え、西国大名が勢力を伸ばすことを警戒したので海外との貿易を制限するようになりました。必然的に交易場所は限られ(平戸と長崎)、1624年にスペイン船の来航が禁止され、1639年にはポルトガル船の来航が禁止されるなど鎖国体制が成立し、南蛮貿易は終了することとなりました。

# ～その他ポルトガルに関する情報です～

## ザビエルの道、世界遺産に(鹿児島)

日本に初めてキリスト教を伝えたフランシスコ・ザビエルが欧州、アジアに残した足跡を世界遺産に登録しようと14日、鹿児島の市民や教会関係者らが「ザビエルの道を世界遺産にする会」を発足させた。同会は2年前から準備を進め、スペイン大使館とポルトガル大使館の後援承諾を獲得。ザビエル一族の子孫からも協力を取り付けた。今後、関係国やローマ法王庁大使館、関係自治体に協力を要請する。

[共同通信社:2006年06月14日]

## 日本ポルトガル協会の事業報告(東京)

平成17年6月3日、東京都千代田区大手町の三井物産ビル第一会議室において「社団法人日本ポルトガル協会 平成16年度 理事会・通常総会」が開催されました。主な活動報告としては

- ・サンパイオ・ポルトガル大統領来日(2005.5.21-28 「愛・地球博」会場、他)  
「愛・地球博におけるポルトガル・ナショナルディ」公式式典参加のため、サンパイオ大統領一行が来日。「ポルトガル館」をはじめ、日本ポルトガル協会会長の招きに応じて「三井東芝館」等を視察。天皇皇后両陛下との午餐会、皇太子殿下との接見、小泉首相との会談等を行った。
- ・「美味しいポルトガル」セミナー開催(2005.10.15 / 12.3 / 2006.2.4 マヌエル四谷店)  
毎回違うテーマで、ゲストスピーカーによる講演、スライドの上映、料理の実演等を行い、日本ポルトガル協会オリジナルのポルトガル料理のコースとワインを提供。毎回とも定員を上回る参加者となった。
- ・外務省主催「日・EU市民交流年」への参加・協力(2005.11.12-13 日比谷公園)  
イベントの一環として開催された「ヨーロッパ秋まつり in 日比谷」では、EU各国がステージや物産販売等、様々な形で参加し、来場した日本の市民と交流した。ポルトガルからは観光貿易振興庁のほか、日本ポルトガル協会会員・木下インターナショナル社、メルカードポルトガル社などが出展し、ポルトガルを紹介。大勢の来場者で賑わった。
- ・ザナッティ駐日ポルトガル大使歓迎会(2006.3.24 東京會館三井物産別館店)  
昨年末着任されたザナッティ大使の歓迎会を開催。当日は大使ご夫妻をお迎えし、多数の来賓・会員が集って大使のご着任を祝うと共に会員相互の親交を深めた。

## 新会員のご紹介です

「後藤智江モダンダンススタジオ」の主宰者であり、大分県のモダンバレエの第一人者である後藤 智江さんが入会しましたのでお知らせします。

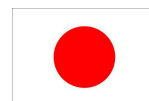
### 略歴

- 1951年 大分市にて平瀬克美師事
- 1964年 上京・平岡斗南夫・志賀美也子師事
- 1977年 (社)現代舞踊協会新人賞受賞  
大分市に後藤智江モダンダンススタジオ開設
- 1981年 全国舞踊コンクール・創作部門第1位、文化大臣奨励賞受賞
- 1982年 中国公演(上海、武漢、北京にて四回公演を行う)
- 1997年 ドイツ青少年音楽祭参加

## ～ミニ情報～



# 2006年FIFAワールドカップ速報



## ポルトガル 40年ぶりにベスト8進出！

先月6月は「猫も杓子もサッカーワールドカップ」で盛り上がりましたね。

我が日本は残念ながらグループリーグ敗退を喫してしまいましたが、2大会連続4回目出場のポルトガルは予選からの好調さを如何なく発揮！40年ぶりのベスト8進出を果たしました。予選D組のポルトガルは、まず初出場のアンゴラと対戦。前半4分にパウレタが先制点し、その後は効果的な守りで初出場のアンゴラの反撃を許しませんでした。

(1 - 0)第2戦は日本と同じアジア代表のイランと対戦。前半押し気味に試合を進め、後半にデコ、



### チームインフォメーション

FIFA ランキング (2006年5月) 7位

W杯出場回数 4回

W杯最高順位 3位

W杯初出場年 66年

人口 (2005年推定) 1049万人

主要言語 ポルトガル語

ロナルドの中心選手がゴールを奪って快勝。(2 - 0) 第3戦も(2 - 1)で予選リーグ全勝、グループリーグ1位で1966年大会以来の決勝トーナメント進出を決めました。決勝Tでは前半23分、右サイドからデコの中央への折り返しをパウレタがマイナスのパス、駆け上がったマニシェが右足で決めて先制！後半は防戦ながら体を張った守備でオランダの攻撃をはね返し、見事ベスト8進出を決めました。

## 「大分市南蛮文化祭」のお知らせ

平成18年はフランシスコ・ザビエル生誕500年の年にあたり、大分市では大友宗麟時代の異文化との遭遇を再現し、大分市が西洋音楽・演劇発祥の地であることを再認識することを目的として「大分市南蛮文化祭」を開催します。

1. 古楽器演奏会「タブラトゥーラ コンサート」  
日時 平成18年11月11日(土) 14時～  
場所 平和市民公園能楽堂  
入場券 2,000円(全席自由)



## 編集後記

2. 市民参加ステージ「拝啓 ザビエル様」  
日時 平成18年11月26日(日)13時30分～  
場所 コンパルール文化ホール  
テーマ 「異文化との遭遇」  
入場料 無料

今回は「ポルトガルとの交流」と題した大分とポルトガルとの交流史と、最新のワールドカップ情報という「新旧」の情報を載せてみました。これからもいろいろなジャンルのポルトガル情報を発信していきたいと思います。(加藤、白石)